

鳥取西高近畿同窓会報

第 16 号

2023 年 4 月 1 日発行

発行 : 鳥取西高近畿同窓会
 発行責任者 : 窪田邦倫 (西高 45 年)
 編集責任者 : 山内紀嗣 (西高 43 年)



集おう・繋ごう・伝えよう

～飛躍の年に思う～

鳥取西高近畿同窓会

会長 窪田 邦倫

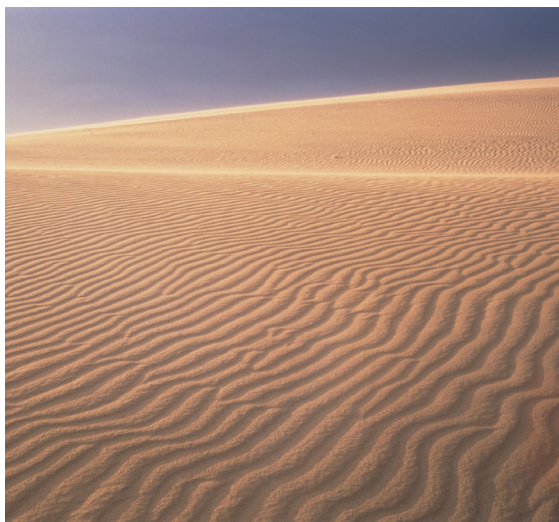
(西高四五年)

故郷を代表する観光名所・鳥取砂丘が、日本で最先端の月探査に向けた研究開発拠点になっている、というニュース(令和四年十一月三〇日付・読売新聞)に接しました。「国内で最も月面に近い」と言われる環境を活かし、実証実験やイベントが活発になっているとも伝え、鳥取県も「鳥取砂丘月面化プロジェクト」と銘打ち、宇宙関連企業や研究機関の誘致に動き始めていると報じています。

コロナ禍でマイナス思考になりがちな環境の中で、夢のある話は心をときめかせてくれます。この話題に、今は夢でも、やがてその夢は努力で現実となり、そして明るい未来を創造する、と教えられました。

近畿同窓会は昨年六月二六日(日)、コロナ禍で「中止」を余儀なくされていた総会を三年ぶりに開催しました。不安もありましたが、少しずつ制約が緩和されており、安心・安全を最優先に考えながら、「会員の絆を大切にしたい」との強い思いで、開催を決めました。

当日まで不安は消えませんでしたでしたが、やがて『喜び』に変わりました。会場の大阪キャッスルホテルには、再会を心待ちにしていた一回生(昭和二五年卒)から五四回生(平成十五年卒)までの四四人が元気な姿を見せてくれました。出席者の四分の一



鳥取砂丘の風紋 © 鳥取県

は初参加です。久しぶりの顔合わせで、マスク越しでも会話は弾み、会場は熱っぽい空気に包まれました。鳥取から小谷文夫・同窓会長、岡岡進・校長、大阪の鳥取県関西本部から卒業生の高務裕子・本部長も出席され、近畿の枠を超えて絆の深まりを感じるとともに、対面で会話が出来るのがこれほど人を喜ばせるのか、と実感しました。総会後、出席された方から「久しぶりに皆さんに会えて楽しい時間が持てました。来年も元気なら出席したいです」「初めて参加しました。繋がりのある方を知り、楽しい時間が持てました」などの声が聞かれました。

欠席の方からも「まだコロナが収束していなかったので欠席しましたが、無事に開催されたとのこと。行けなくて残念でした。体は大丈夫なので来年は出席させていただきます」などの声が寄せられました。冒頭に夢のある話を紹介しました。「夢は見るものでなく叶えるもの」と言われます。近畿同窓会の夢は「集おう・繋ごう・伝えよう」です。鳥取西高は今年、創立百五十年を迎えます。今年の干支は「兔」。飛躍の年です。コロナ禍を乗り越え、皆様とともに飛躍をし、夢を実現したいと思っています。

第 58 回鳥取西高近畿同窓会ご案内

日時 : 令和 5 年 6 月 18 日 (日) 11:00 ~ 14:30

(受付は 10:30 より) ①総 会 : 11:00

②懇親会 : 12:00 ~ 14:30

会場 : 大阪キャッスルホテル 6 階
 大阪市中央区天満橋京町 1-1 TEL 06-6942-2401

参加費 : ￥9,000 <会場にご持参ください>
 (29 歳以下の方は 6,000 円)

社会情勢を勘案し、参加費を改定させて頂きました。

長寿 (80 歳) の方のお祝いは当日出席された 37 年ご卒業の方、36 年以前でお祝いがまだの方が対象となります。

コロナウィルスの収束状況などで中止・延期の可能性もあります。

第五七回

西高近畿同窓会報告

コロナ禍で中止を余儀なくされていた近畿同窓会総会が三年ぶりに令和四年六月二六日、開催されました。

新型コロナウイルス感染症は収束には至りませんが、徐々に感染者が減少していることもあり、「人と人の絆を大切にしたい」との強い想いもあり、「安心・安全」を最優先に考えて開催を決めました。

同窓会当日は、再会を心待ちにしていた四四人が元気な姿を見せてくれました。出席者の四分の一は初めて参加された方でした。



第57回定例会総会
鳥取西高等学校近畿同窓会
令和4年6月26日(日)
於大阪キャッスルホテル



左から小谷同窓会長、田口さん、國岡校長、窪田会長、高務関西本部長

この数字には広がりやの輪を感じるとともに、対面で会話が出来ることがこれほど人を喜ばせるのか、ということのを再認識しました。

総会には、遠路母校より國岡校長（五九年）、同窓会より小谷会長（四七年）、鳥取県の高務関西本部長（六一年）をお迎えし、國岡校長からは映像を使って母校の現状などが紹介されました。

懇親会は、感染対策を考慮して恒例の余興はなくし、会員相互が会話を楽しむ時間を長くしました。会場には年次を超えて久しぶりに集う卒業生の笑顔と楽しい会話があふれ、会は終始和やかな雰囲気で行進。最後に全員で歌った校歌は、これまで以上に心に刻まれるものとなりました。

「来年もぜひ参加したい」という声を多数いただいた今回の総会は、スローガンに繋がるものであり、近畿同窓会の未来に繋がる記念の会となりました。

旅行記

「想い出はすみれ色」

に寄せて

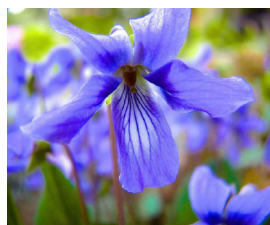
西高三〇年 松永（前根）澄子

大阪に在住していた姑が、嫁を「自分の卒業した鳥取県立高女の後輩から選びたい」と同級生の友人に依頼されたそうので、図らずも私にお話があり、縁あって主人と結婚しました。鳥取を離れて慣れない大阪暮らしも二人の子供にも癒されながら徐々に慣れ親しんでいきました。

下の子供が入学したのを機に、誘われるままD保険の外務員として働くことになりました。それまでと全く異なる世界を経験するなかで徐々に馴染んでいき、退職するまでの四十数年間それなりの成績を収めることができました。

生命保険の最高峰「MDRT」の会員も二五回継続することが出来ました。世界七十カ国の会員と交流する場所を巡る旅行が基本で、気の合った者同士がサークルを組み、年に二回、海外・国内と仕事の合間に旅をしていました。

また、会社でのご褒美旅行とか顧客訪問の出張等、兎に角、頻繁に出歩いています。



スマイレの花びら

た。写真が好きた。私きだった私は、その都度カメラを携えていましたから、結果アルバムが増え続

けました。退職して断捨離を敢行する際、膨大なアルバムを捨てる前に記録として残そうと思いつき、「想い出はすみれ色」のタイトルでブログを作り上げました。ちょうど一年かかりました。海外は二八カ所のうち米国が一番多く、六つの州を限なく観光しました。

それはMDRT世界大会に参加して、大義名分は各国から集まった同業者との情報、知識を交換する神聖な空間を共有する目的ですが、滞在の殆どを観光に費やしました。その他、地中海帆船クルーズは景観の素晴らしさに酔いしれて、アイルランドは古代遺跡「巨人のテーブル」や古城のホテル「アッシュフォード城ホテル」に感激し、ロシアのサンクトペテルブルクではエルミタージュ美術館の「琥珀の部屋」に驚愕、今は無いNYツインタワー、等々。国内では最北端に位置する北海道の礼文島、利尻島。南では天草のお宿「石山離宮五足のくつ」、二度と行けないだろう素敵な観光地が蘇ります。

地球規模で襲われたコロナ禍も、三年を経てようやく共存できそうな様相を呈しています。観光客も動き始めていますが、退職してからは体調がおぼつかない今は遠出することに自信がなく、旅行は過去の思い出となりました。

これまで沢山旅行させていただけただけ幸せに感謝です。思い出を生きる術にしている今は、まだまだアルバムは捨てられません。

卓球との関わり

(過去・今)

西高四三年 中村彰夫

現在、私は川西市卓球協会副理事長として、また、『川西もくれん』の役員として市の卓球の試合・練習等で運営の一員として携わっています。

東京オリンピック卓球ミックスダブルスで、水谷・伊藤ペアの卓球競技初の金メダル獲得は卓球に少しばかり関わっている者にとって大変嬉しく応援していました。

卓球は中学の時に部活を始め、西高の時はやらなくて大学に入り四年間続けて一回生後半から卒業までレギュラーとして試合に出場しました。(あまり強くない大学です) 卒業後、就職した大阪市役所の環境保健局卓球部に入室し、大阪府実業団リーグで四八歳ぐらいで試合に出場しました。四部・五部でそれなりに頑張りました。退職までは健康のため練習のみ参加です。

退職二年後、地域の卓球クラブ『川西もくれん』に参加させて頂き、試合にも年間十試合ぐらい出場するようになりました。五年後には卓球協会理事長の大役を任せられ



二年間を無事務め上げました。理事長時代にはロンドンオリンピック卓球銀メダリストの平野早矢香選手を

講師としてお迎えして卓球教室を開催しました。川西の大会、卓球合宿にはプレーク前の伊藤美誠選手、平野美宇選手、木原美悠選手等々に参加していただきました。

二〇一八年九月に脊髄の手術により三か月の入院と、退院後は通院とリハビリにより少しずつ回復し、二〇一九年三月より軽い練習に復帰、九月からミックスダブルスで試合に復帰、二〇二〇年にはシングルの試合も出来るようになり現在に至っています。卓球をやりたい思いで治療とリハビリを頑張ったお陰だと思っています。

まだ身体に少し麻痺が残っていますが全盛期の自分に少しでも近づけるよう練習とリハビリを頑張っています。

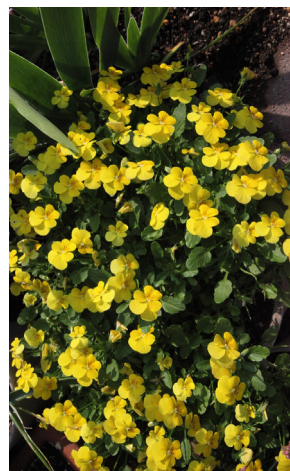
鳥取の思い出

：貴重な十年間：

西高四六年 原 弘

私は昭和四六年に卒業しました。卒業後の進学も就職も関西なので鳥取を離れて何十年も過ごしていました。

鳥取では四七歳の時に母が他界し、五五歳の時に一人暮らしの父が倒れました。予想外だった私は父を一旦大阪(吹田)の家に移しリハビリ施設に通わせましたが、その後すぐ勤務先を中途退社し父と共に鳥取に戻りました。これを決めたとき鳥取での生活設計は全くの白紙でした。ただ、事前に大阪駅前にある鳥取県関西本部で鳥取市就職相談に参加し、そこで薦められた先が



ありました。

それは鳥取市観光協会(当時)で職種は地元物産のPR販売でした。採用目的は翌年開催の「2009鳥取・因幡の祭典・・・砂像フェスティバル」での鳥取市PRでした。私は応募しました。私の経歴は金融マン、大阪・東京で数十年間金融業界の浮き沈みを体験し辟易気分もあったので、郷里で父を介護しつつやりたいことをやって生計をたてるのならこれだ!と思ったのです。

私は、平成二〇年五月J.R鳥取駅構内に新設された「鳥取市ふるさと物産館」館長に就任し、食品や民芸品等地元物産などPR販売を開始しました。そして翌年四月五月開催の砂像フェスティバルでは成果を挙げることができ、各地から来場された多くの方に喜んでいただきました。

その後、父の体調不良で観光協会を退職しましたが、体調がやや回復したので今度は鳥取県物産協会に就職しました。職種は同じく物産PR販売で、営業及び経理・総務全般も兼務しました。平成二五年五月には大山で開催された第六四回全国植樹祭会場にも出店し、ここでも大盛況でした。

その後、父は旅立ってしまい、私は業務を続け、六五歳定年で退職し吹田に戻りま

を続け六五歳定年で退職し吹田に戻りました。

鳥取で物産PR販売の業務ができたのは十年間だけでしたが、この期間はちょうど全国の物産展がとても活況な時期で、コロナの心配もなく本当にこの間とても楽しく、また充実した日々をおくることができました。

私の家族はこの間も吹田にいて、妻は鳥取と吹田を往復する日々でした。私は父の介護を吹田で看るか鳥取に帰るか決めることを、あまり説明もせず押し切って決めたため、苦勞をかけたことを反省するとともにとても感謝しています。

私の選択が良かったのか、答えは簡単に出せません。しかし、この十年間は私が故郷で過ごせた貴重ですばらしい日々でした。苦しい時もありましたが、それら一つ一つが良い思い出となっています。

西高生の雄姿を再び!!

西高四八年 佐藤 収

私は東京の大学を卒業後、丸の内には本社がある大手生命保険会社に入社しました。その後、五〇歳を機に同じく東京に本社を構える警備会社に移り今日に至っております。現在は、執行役員大阪支社長として八年目の単身赴任中です。

本同窓会には大学の先輩でもあります故高野泰明(元三洋電機社長、元近畿同窓会会長・名誉会長)さんのご紹介で出席する

ようになりました。

さて、現在の勤務先であります大阪支社の警備先の一つに甲子園球場があります。プロ野球公式戦を始め、春・夏の高校野球全国大会等の全試合を警備しております。因みに西高は春・夏あわせて二七回の県内最多出場を誇りながら、春は一九九三年以来二九年間、夏は二〇〇八年以来一四年間出場の機会がないのが大変残念です。

去る二〇一八年夏に開催された第一〇〇回記念大会の開会式では、何と西高の浜崎主将が選手入場の先導役を立派に務めた勇姿が今でも鮮明に記憶に残っています。第一回大会の代表校一〇校のうちの一枚が山陰地区代表であった西高の前身の鳥取中学であり、開幕試合を勝利した長い歴史と伝統が評価されたのだと思います。白いユニフォームに「TOTTORI」のえんじ色の文字を久し振りに間近で見、熱いものがグッと込み上げてきました。欲を言えば鳥取県の代表としてチームで出場してくれていたなら、もっと大きな感動を味わうことができていたと思います。

今年は西高創立一五〇周年の年であり、私達昭和四八年卒組にとつては五〇回目の同窓会という大変記念すべき年であり節目の年でもあります。

甲子園球場での西高生の久々の勇姿を大いに期待しているのは私だけではないと思います。

頑張れ

西高生!!



会員の近況



(昨年の返信はがき通信欄より)

大谷光子(西高二六年) 神戸の六甲アイランドに住んでおります。息子一家の近くということで一〇年程前に大阪から越してきました。

武田彰正(西高二六年) 足腰が弱ってきて歳を取ったなと思います。一応、会社には一日おきに出ています。

太中繁夫(西高二六年) 病床にあるなかでなんとか孫に囲まれて余生を送っています。

多田 梢(西高三一年) 息子に医院継承の準備はできたのですが、私はまだ元気なので、ほとんどフルタイムで働いています。

衣川實郎(西高三一年) 農林業、雑事で多忙な日々を過ごしています。

草野榮子(西高三三年) 気は若いつもりだが身体は確実に老化。腰椎圧迫骨折(要支援2)、外出歩行が不安定。

植村京子(西高三四年) 気持ち・心は六〇歳? 体は長年の職業病? 背は丸く体はゆがみ、口だけ達者な老婆となりはてました。

川上恵子(西高三四年) 阪神シンアカレッジ健康科に通っています。クラブ活動で世界史とうたごえの会で頑張っています。

武田尚子(西高三五年) 葉桜の頃になりました。吹く風もさわやかで散

歩するのにちょうど良い季節です。野の草花をスケッチして楽しんでます。

田中洋子(西高三五年) 帰省のたびにふるさととは大きく変貌し 古きスケッチに吾が青春のまちな残る ひろこ詠

橋本 勝(西高三五年) 何とか元気に過ごしております。毎日三〇〜四〇分程度散歩し、体力維持に努めています。

市川渥史(西高三七年) ここ三年は家事(トイレ掃除、風呂掃除、食器洗い、布団干し)が私の専職となりました。二〇

数年相変わらずテレビ、新聞は見ないでインターネットに没頭しています。

常村一則(西高三七年) 一人暮らしながら今は「俳句」を生きがいとして元気で余生を過ごしています。

川上義美(西高四〇年) 趣味のマレットゴルフ、ギター教室等できるだけ安全を期し、外出して身体を動かすよう心掛けています。

松田春一(西高四〇年) ひざ痛と肥満に悩みながら相変わらず市民農園に励んでいます。

宇都宮栄子(西高四一年) 好きな仕事(ナース)も辞めました。今はボランティアで電話相談、認知症支援サポーター等に関わらせてもらっています。

玉川徳潤(西高四一年) 社交スタンダードやっています。アマチュアA級、元氣です。

庄田英一(西高四四年) 茨木市彩都北側にある山と川に囲まれた棚田で作った野菜、米を無人直売所で販売、スーパ、

学校給食へも出荷しています。

水野範恵(西高四六年) パートで介護施設で頑張っています。

坂口正義(西高四七年) 現在も技術系会社員として仕事を続けています。

志田啓子(西高五〇年) すでに両親は他界しましたが、墓参りに年二回はこっそりと帰省しております。

今井岳史(西高五三年) 昨年の春、長野県から高槻市へ転居してまいりました。

尾崎充典(西高五三年) 両親介護のため、鳥取と大阪を行き来しております。定年退職も間近となり今後は鳥取住まいが中心になりそうです。

浦川ひかり(西高五五年) 四月より尼崎で整形外科医として、常勤で仕事を再開しました。



この号は紙面の都合から、年会費納入者のお名前が掲載できませんでした。全員で一二三名の方に納入して頂きました。

お礼を申し上げます。

(事務局連絡先)

〒631-0803

奈良市山陵町二三六・一

サンプラザ二〇八

村江 信幸 宛

090・3465・7203

